

科目・コース（ユニット）名： 行動科学Ⅰ（基礎心理学）
英語名称： Behavioral Science 1 (Basic Psychology)

【担当責任者】三澤 文紀（総合科学教育研究センター）

【連絡先】担当責任者 E メールアドレス f-misawa@fmu.ac.jp

【開講年次】 1 年【学期】前期【必修／選択】必修

【授業形態】講義

【概要】

本講は、一連の行動科学教育の最初に位置づけられており、心理学や行動経済学を中心とした内容を取り上げる。心理学や行動経済学は心と行動を研究対象とする学問であり、そこには人間に関する数多くの知見、ならびにユニークな人間観が存在する。本講では、それらの代表的な研究領域を取り上げ、そこでの主な理論や特徴的な研究を紹介する。

【学習目標】

- 1) 本講で扱う諸領域（知覚心理、記憶、認知、発達心理、社会心理、臨床心理、行動経済学、等）に関して、授業内容を基に正しく答えることができる。
- 2) 本講で扱う諸領域の知識やその考え方・人間観について関心を持つ。

【教科書】

授業に関する資料冊子を、授業各回前までに配布（掲示）する。

【参考書】

講義の際に適宜紹介する。

【成績評価方法】

期末試験、授業内の小テストや課題、出席状況、授業態度に基づき評価する。出席状況は、授業感想文、小テスト、課題等の提出で確認する。私語が多い、遅刻や早退が多い、授業で提示された課題や活動に取り組まないなど、授業態度が著しく不良な場合、期末試験の受験を認めない。

なお規定に基づき、原則として講義（あるいは演習）は2／3以上の出席を要する。

【学習上の注意事項】

授業では、インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末等を持参してください。

【垂直的統合授業の実施内容】

本稿の授業内容のうち、「ストレス」、「臨床心理１・２」、「行動経済学１・２」では、精神医学をはじめとした臨床医学と関連した内容を扱う。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	R8. 4. 20	月	3	(講) 行動科学の重要性 1	竹林由武	
2	R8. 4. 27	月	3	(講) 行動科学の重要性 2	竹林由武	
3	R8. 5. 11	月	3	(講) オリエンテーション／感覚と知覚	三澤文紀	
4	R8. 5. 12	火	3	(講) 行動経済学 1	竹林由武	
5	R8. 5. 12	火	4	(講) 行動経済学 2	竹林由武	
6	R8. 5. 18	月	3	(講) ストレス	三澤文紀	
7	R8. 5. 19	火	3	(講) 社会的認知：印象、記憶、態度、感情	日高友郎	
8	R8. 5. 25	月	3	(講) 性格・知能	三澤文紀	
9	R8. 5. 26	火	3	(講) 自己：自己、アイデンティティ	日高友郎	
10	R8. 5. 26	火	4	(講) 対人：援助、攻撃性、集団	日高友郎	
11	R8. 6. 1	月	3	(講) 臨床心理 1：精神分析・認知行動療法	三澤文紀	
12	R8. 6. 1	月	4	(講) 臨床心理 2：クライアント中心療法・家族療法	三澤文紀	
13	R8. 6. 2	火	3	(講) 幸福：コミュニティ、環境	日高友郎	
14	R8. 6. 8	月	3	(講) 動機づけ	三澤文紀	
15	R8. 6. 8	月	4	(講) 発達 1：乳幼児期～児童期	三澤文紀	
16	R8. 6. 15	月	3	(講) 発達 2：青年期～成人期	三澤文紀	
17	R8. 6. 22	月	3	(講) 発達 3：成人期～老年期	三澤文紀	

【担当教員】

教員氏名	職	所属	連絡先
三澤文紀	教授	総合科学教育研究センター	f-misawa@fmu. ac. jp
竹林由武	講師	医学部 健康リスクコミュニケーション学講座	ytake2@fmu. ac. jp

日高友郎	准教授	医学部 衛生学・予防医学 講座	thidaka@fmu.ac.jp
------	-----	--------------------	-------------------